

2018年3月30日

各 位

第一工業製薬株式会社

「DBJ 健康経営（ヘルスマネジメント）格付」最高ランクの格付を取得

第一工業製薬（本社：京都市南区、会長兼社長：坂本隆司）は、株式会社日本政策投資銀行（社長：柳正憲）の「DBJ 健康経営（ヘルスマネジメント）格付」（以下、「DBJ 健康格付」）において最高ランクの格付を初めて取得しました。

「DBJ 健康格付」融資は、DBJ 独自の評価システムにより、従業員への健康配慮の取り組みが優れた企業を評価・選定し、その評価に応じて融資条件を設定するという、「健康経営格付」の専門手法を導入した世界で初めての融資メニューです。

当社は、創業以来 100 年以上にわたり培ってきた高い研究開発力・技術力を背景に、界面活性剤をはじめとする化学品分野において数多くの高付加価値製品を提供する工業用薬剤のトップメーカーです。

『第一工業製薬は、従業員を会社の財産と考え、従業員の健康の維持向上に努めます。』の健康宣言のもと、全社をあげて健康経営に取り組んでいます。

以上

・本件についてのお問い合わせ

第一工業製薬株式会社 広報 IR 室

TEL.075-323-5951

<ご参考資料>

【DBJ 健康格付の評価ポイント】

- (1)安全教育研修所の活用、SPS 活動(注 1)などの徹底した労働安全衛生、DKPM 活動(注 2)などをはじめとした職場環境改善の取り組みや各種の制度の整備により、働きやすい職場風土の醸成に努めている点。
- (2)組織として健康診断受診率向上の取り組みを推進し、保健師が積極的にグループ内の健康管理の推進に関与しながら、健康診断や保健指導を働きかけた結果、健康診断、二次検診ともに 100%の受診率を達成した点。
- (3)健診データ、ストレスチェックデータなどを活用したデータ分析に着手し、社内報などを通じて従業員に周知しているほか、e-ラーニングを活用した生活習慣病、メンタルヘルスなど従業員の健康リテラシー向上への取り組みを行っている点。

(注 1) Strong Production Site(強い現場)の略。

現場力の強化を目的として、製造部門が共通して抱える課題の共有・改善を目指す活動。

(注 2) DKS(Dai-ichi Kogyo Seiyaku) Productive Maintenance の略。

5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を基本とし、企業体質の強化、管理・改善の基盤を構築する活動。